

オドリコソウ

踊子草おどりこそう

シソ科

芸を盗んだ踊り子の誤算

野外で危険な植物にイラクサ(刺草)がある。イラクサの茎や葉には細かな刺毛しもうが密生している。バラのようにトゲで身を守る植物はほかにもあるが、イラクサが持っているのはただのトゲではない。トゲの根元には毒を含んだ小さな袋が備えられていて、皮膚に刺されるとトゲの先端がはずれ、注射針のように傷口に毒を注入する。

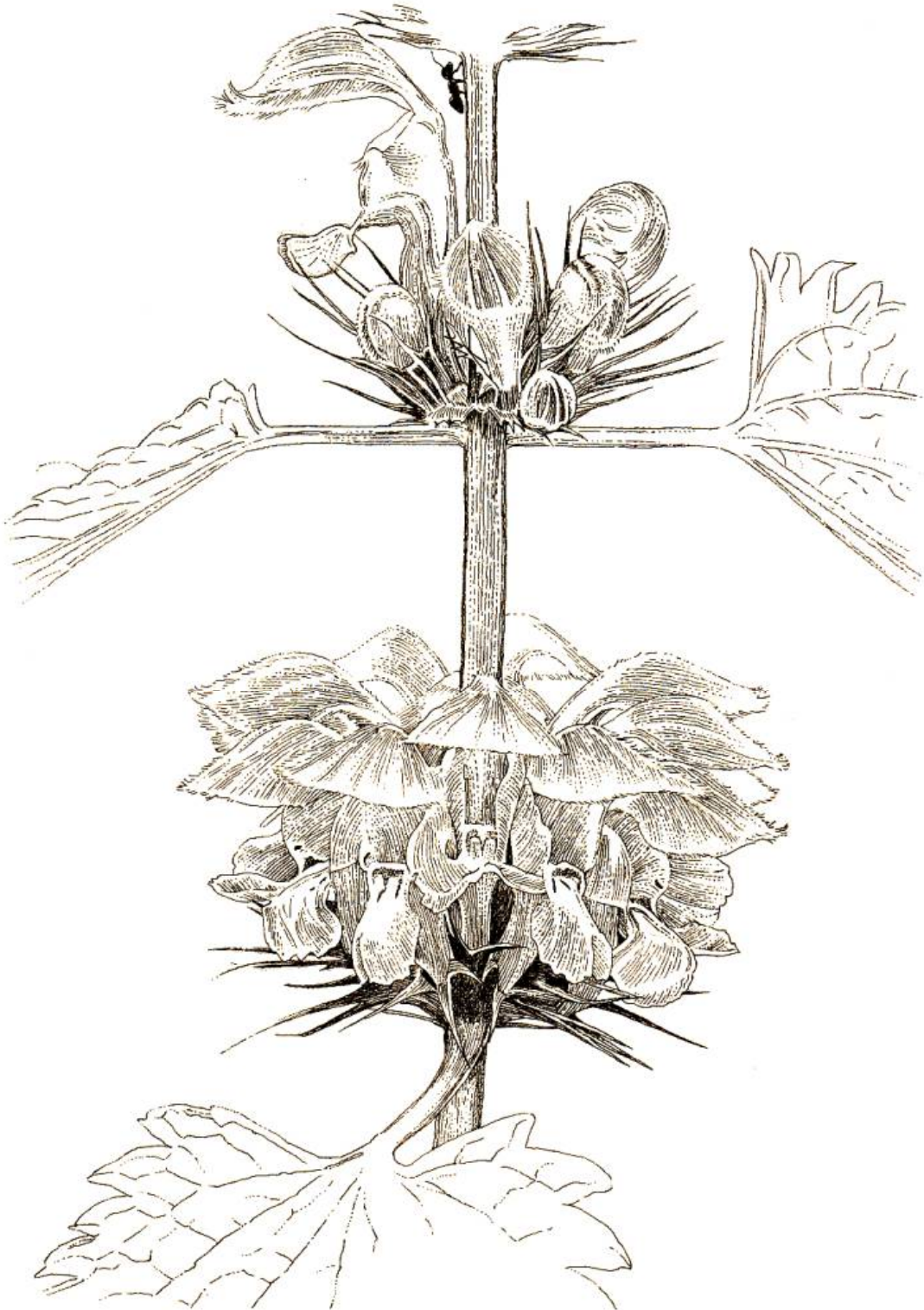
ただ刺すだけでなく、袋から毒を注入するという高度なしくみは、スズメバチの毒針やマムシのキバとまったく同じである。イラクサは植物でありながら、生物界で最高レベルの防御システムを持っているのだ。野生動物も、このイラクサだけは食べるどころか近寄ることさえできない。もちろん人間にも害があり、刺毛に刺されると赤く腫れ上がってしまう。イラクサは漢名を「蕁麻じんま」という。そう、アレルギー発疹である蕁麻疹じんましんの由来となったほどの有害植物なのだ。

オドリコソウはこのイラクサに似た形の葉を持っている。そればかりか、イラクサの刺毛に似せたちぢれ毛さえ生やしている。とはいってもイラクサがイラクサ科に分類さ

れるのに対して、オドリコソウはまったく別のシソ科の植物である。イラクサの複雑な防御システムは簡単には真似ができないが、外見だけなら何とか真似できる。そこで、オドリコソウは毒針を持つイラクサの葉に似せることによって、動物から身を守ることが考えたのである。もちろん、オドリコソウの葉にトゲはないので触ってもまったく害はない。まさに「虎の威を借る狐」である。

しかし、イラクサとオドリコソウとはもともとまったく違う種類の植物なので、花が咲けば似ても似つかない。イラクサの花は花びらもなくほとんど目立たないのに対して、オドリコソウはよく目立つ美しい花を咲かせる。その花の形が編笠をかぶった踊り子がぐるりと輪になって踊っているように見えるので、オドリコソウと名づけられたのだ。

こんなにも美しい花を咲かせるのは、花粉を運んでもらう虫を呼び寄せるためである。それだけではない。オドリコソウは、美しい花にくわえて甘い蜜をたっぷり用意した。もちろん、どんな虫にも蜜を分け与えるわけにはいかない。花粉を効率よく運んでくれるハナバチだけに、正当な報酬として与えたいのだ。そのためオドリコソウは、蜜を花の筒の奥深くに隠した。花の編笠に見えるところの、ちょうど下の部分に花の中への入口がある。この花の入口はちょうどハナバチの体を通るだけの大きさになっていて、大型のハチや羽の大きなチョウが入ることを拒むのである。これで完璧なはずだった。



ところが、花に入ることのできない多くの虫たちが、豊富な甘い蜜をみすみす見逃すはずがない。オドリコソウに拒まれた大きなハチは、花の筒の横に穴を開けて蜜を盗み出してしまふことを考え出した。いわば強盗である。一度開けられた穴からは、おこぼれに与^{あず}かろうと駆けつけた小さなハチやアリもつぎつぎに蜜を盗み出す。

意外なところに、もっと手強い敵もいた。それは人間の子どもである。かつてオドリコソウは子どもたちにとっておなじみの植物だった。子どもたちはオドリコソウの花をつぎつぎに摘んではおやつ代わりに蜜を吸ってしまうのである。たつぷり用意した甘い蜜が完全に裏目に出てしまったのだ。

イラクサに姿を似せることで身を守る術を発達させたオドリコソウであるが、花の奥に隠したはずの蜜にまでは思いが至らなかつたということか。師と仰いだ頼みのイラクサは虫を呼び寄せる必要がない風媒^{ふうばい}花なので蜜を持たない。葉は守っても花を守る必要はないのだ。真似すべきモデルを見つけられないオドリコソウの蜜を守る有効な手だては、今のところなさそうである。



名前 オドリコソウ

科名 シソ科

学名 *Lamium album* L. var.
barbatum (Sieb. et Zucc.)
Fr. et Sav.

花期 春

くきは四角形で、高さは30cm～50cmほどあります。

葉のふちにはギザギザがあり、シソの葉のような形をしています。

花は白色かうすい赤色で、大きさは3cmほどです。

**名前の
いわれ**

花の形が、人が笠(かさ)をかぶっておどっているすがたに見えることから。

おどりこそう No038



名 前 オドリコソウ
踊子草

別 名

科 名 シソ科

学 名 *Lamium album* var. *barbatum*

花 期 4～6月

草 丈 30-50cm

生育地 山野の半日陰、野原

仲 間 ヒメオドリコソウ、チシマオドリコソウ

その他 食用可

撮影地 宝飯郡小坂井町

※画像はクリックで拡大します。

メ モ

花は白色または淡紅紫色で、茎を取り囲むようにして上部の葉のわきについています。花の形が笠をかぶった踊り子の姿に似ていることからオドリコソウの名前がつけました。葉はシソの葉に似ています。

東アジアの温帯に広く分布するそうです。下の画像は白花とピンクの花です。

オドリコンウ *Lamium album* var. *barbatum* (シソ科 オドリコンウ属)

オドリコンウは北海道から九州に分布する多年生草本。朝鮮半島から中国にも分布する。地下茎で広がり、路傍や山裾・竹林・河川などに群生する。春に葉腋に輪状に花を咲かせる。花の色は白から薄い桃色までである。花の形はおもしろく、和名は花の形を、笠をかぶった踊り子が並んで踊っている様子に例えたもの。節に輪状に花を咲かせ、一番目の花が咲き終わるとその下に控えていたつぼみが開花するので、花期は長い。





オドリコソウ<踊り子草> シソ科 オドリコソウ属 *Lamium album* var. *barbatum*

低山地の半日陰に見られる多年草。高さ50cm程度。春～初夏に開花。和名は、花が踊り子に似ていることから付けられている。写真右は、完全な純白の個体で、シロバナオドリコソウなどと呼ばれている。

分布 本州～九州

花期 4～6月

撮影 野川公園 01. 4. 28、長崎市 04. 5. 4









オドリコソウ *Lamium album* var. *barbatum* (シソ科 オドリコソウ属)

オドリコソウは秋に休眠から目ざめ、冬にはフレッシュな葉を展開している。茎の断面はシソ科の植物の特徴である四角形である。弱々しく、風の強い場所には生育しにくいであろう。葉の表面には全面に毛があるが、裏面には脈上のみ短毛がある。葉柄には、やや長い毛が多い。

